第4章 テーマ別まちづくりの方針

本章では、第３章において設定した白子町の目指すまちづくりの将来像の実現に向けて取り組む５つのまちづくりのテーマについて、第１章及び第２章における白子町の現状と今後のまちづくりで求められることを再整理したうえで、これらに対応したまちづくりの方針とその実現に向けた具体的な取組を示します。

■白子町の目指すまちづくりの将来像の実現に向けて取り組むべき５つのテーマ（再掲）

テーマ	ターゲット	まちづくりの目標
暮らし	町民全般 特に子育て層や移住者	・移住、定住の地として選ばれるまち ・自然と農業、住宅が共生した ゆとりあるまち ・子どもたちがのびのび成長できるまち
健幸	町民全般 特に壮年期や元気な 高齢者、フレイル層	・生涯にわたり心身ともに健康で いきいきと暮らせるまち ・地域コミュニティが健全で維持されるまち
交流・経済	観光（団体客、個人客） 農水産業、観光業、製造業	・何度も訪れたくなるにぎわいと活力に 満ちた魅力あるまち ・息づいてきた生業を次の世代につなぎ、 新たな価値を創出するまち
環境・エネルギー	水と緑、地球温暖化対策 天然ガス等のエネルギー	・自然と共生した持続可能なまち ・脱炭素に向けたまちづくり
安全・安心	自然災害（地震・津波・ 洪水）、交通安全	・誰もが正しくリスクを認識して、 安全に安心して過ごせるまち

※「健幸」とは、一人ひとりが健康で生きがいを持ち、安全・安心で豊かな生活を営むことができること、
また、地域において社会参加している状態のことを言います。

テーマ１　暮らし

（１）テーマ【暮らし】のまちづくりの方針

第１章及び第２章における白子町の現状と今後のまちづくりで求められることの整理から、テーマ【暮らし】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことを明確にしたうえで、それらに対応したまちづくりの方針及び方針図を次のとおり設定します。

●テーマ【暮らし】のまちづくりにおける課題や考慮すべきこと（以下の補足資料を次頁に整理）

- 人口減少や少子高齢化の進展を見据えた都市機能（公共施設、商業施設等の生活を支える施設）及び地域公共交通の適正配置による生活利便性の確保が求められている。
- 暮らし方、過ごし方、仕事の仕方の変化（ライフスタイルの多様化）への対応が求められている。
- 安心して子どもを産み育てられる環境の充実が求められている。
- 高齢者がいつまでも安心して暮らせるためのまちづくりが求められている。

●テーマ【暮らし】のまちづくりの方針

移住・定住の地として選ばれるまちづくり

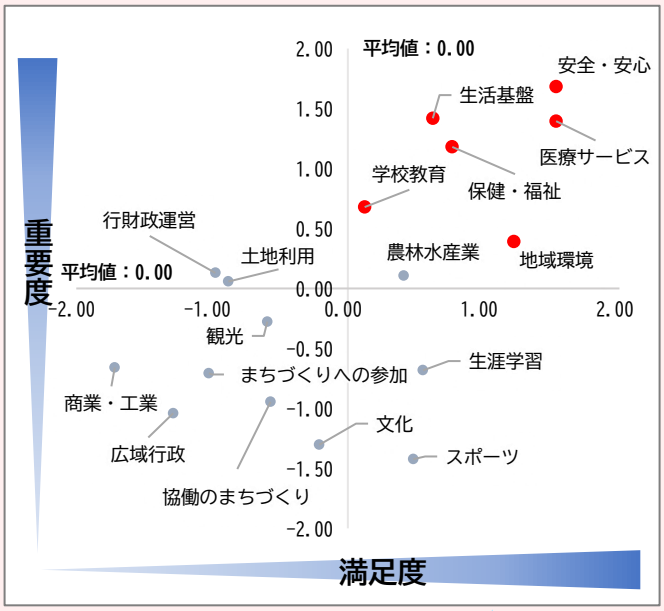
●テーマ【暮らし】のまちづくり方針図

（参考）テーマ【暮らし】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことの補足資料

●人口減少の進展による人口密度の低下（出典：国勢調査、国総研将来人口・世帯予測ツール）

●令和２（２０２０）年時点においても都市機能の維持に必要とされる人口密度４０人/ha を下回っている状況であり、今後さらなる人口密度の低下等により、現在の都市機能の維持はさらに困難になることが推察されます。

●白子町第５次総合計画前期基本計画の施策に対する満足度・重要度（出典：白子町第５次総合計画後期基本計画策定時に実施したアンケート調査）



●「安全・安心」や「医療サービス」「生活基盤」「保健・福祉」「地域環境」「学校教育」など日常の暮らしに大きく関わる取組の満足度、重要度ともに高い傾向にあり、継続的な取組が求められています。

●まちづくりで大切にしたい「まちのイメージ」（出典：白子町第５次総合計画後期基本計画策定時に実施したアンケート調査）

●「福祉」や「子育て」、「安全・安心」など日常の暮らしにかかわる項目を大切にしたいとの回答が多く、取組の強化が求められています。

（2）テーマ【暮らし】のまちづくりの方針の実現に向けた取組

テーマ【暮らし】のまちづくりの方針の実現に向けた具体的な取組を次のとおり設定します。

＜まちづくりの方針の実現に向けた取組＞

取組の柱	該当する具体的な取組
生活拠点ゾーンの形成	**○町民の生活を支える機能の集約** ・人口減少や少子高齢化が進行する中、町民の生活を支える機能を維持・確保する観点から、県道茂原白子バイパスの開通を見据え、現在の白子中学校付近へ新たな生活拠点ゾーンの形成を目指します。 ・生活拠点ゾーンには町民の生活を支える行政サービスや生活利便施設の集約による適正配置を行い、町民の生活利便性の確保に努めます。 ・また、町民の交流の拠点となる多世代・多目的交流施設の整備に向けた検討を進めます。
	○公共施設のマネジメント ・限られた財源の中で、町民が安全安心に利便性の高い施設を維持・確保する観点から、小学校の統合をはじめ、公共施設の適正配置や機能更新等の公共施設の適正なマネジメントの検討を進めます。
	○生活拠点ゾーンの形成に向けた事業手法の検討 ・生活拠点の形成に向けては、農業振興地域内の農用地区の存在や既存権利者との調整など多数の課題が存在します。それらの課題等を明らかにしたうえで、実現に向けた事業手法や都市計画手続きの検討を進めます。
コミュニティ拠点ゾーンの形成	**○コミュニティ拠点ゾーンの形成** ・各地域におけるつながりを維持・活性化していく観点から、各地域のふれあいセンターや統合後の旧小学校校舎等を活用した地域住民の交流や活動の場を、地域住民等と連携し創出します。また、町内の生活移動の拠点の形成を目指します。
生活利便性の向上	**○利便性の高い市街地の形成** ・南白亀地区と白潟地区の海岸沿いの市街地に、まちとしてのにぎわいを創造しながら安全・安心・快適な暮らしを実現していくため、すべての住民が利用しやすい市街地の形成を図ります。
	○移動スーパーの認知度向上・利用促進 ・町民の生活利便性の向上の観点から、スーパーと連携した移動スーパーを展開しているものの認知度や利用のしやすさの点で課題があることから、地域住民やスーパーとの連携を強化し、移動スーパーの認知度の向上や利用促進を図り、町民の生活利便性の向上に努めます。

取組の柱	該当する具体的な取組
地域内外・拠点間などキメ細やかな移動手段の確保	**○地域公共交通の安定的な維持・発展** ・自家用車での移動が制約される高齢者や学生等の移動手段の確保、また過度に車に依存しない社会の構築の観点から、鉄道駅周辺や生活拠点ゾーンへのアクセスがしやすい移動環境の確保に向けて、公共交通事業者と連携しながら地域公共交通の維持・再編・発展等を行っていきます。 ・また、福祉タクシー等の既存の取組に加え、近年の自動車や自転車、電動キックボード等のシェアリングサービスなど新たなモビリティの活用を検討し、多様なニーズに対応した移動手段の確保を図っていきます。
既存ストックを活用した多様なライフスタイルの受け皿の確保	**○定住促進・生活環境の向上** ・既存ストックを活用した多様なライフスタイルの受け皿を確保する観点から、空き家バンク等による情報発信や住宅リフォーム補助金等の支援制度の拡充により移住・定住を促します。 ・今後増加が見込まれる空家等による生活環境の低下の抑制や、空家等の利用促進を図るため、空家等対策計画を策定し、生活環境の維持・向上を図ります。
	○まちの PR の強化と地域ブランディングの推進 ・白子町への移住・定住をより一層推進するため、まちの PR を強化するとともに、地域のエリア価値向上に向けた地域ブランディングを推進します。
公園・緑地の確保と適正な維持管理	**○計画的な公園や緑地の整備・活用・保全** ・子どもたちの遊び場や地域住民の交流の場となる公園や緑地について、既存施設の適正な維持管理・活用を図っていくとともに、地域住民の利便性やニーズ等を踏まえ新たな整備等を検討します。
道路網の形成と維持管理	**○安全な通行を確保するための道路交通環境の整備推進** ・安全で利便性の高い道路網を形成するため計画的な道路整備を推進するとともに、既存の道路及び橋梁の適正な維持管理を図っていきます。
	○都市計画道路の見直し ・都市計画道路について、効果的・効率的な道路網の形成の観点から、現在や将来の交通需要の見通しを踏まえ都市計画道路の見直しを行っていきます。

テーマ２　健幸

（１）テーマ【健幸】のまちづくりの方針

第１章及び第２章における白子町の現状と今後のまちづくりで求められることの整理から、テーマ【健幸】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことを明確にしたうえで、それらに対応したまちづくりの方針及び方針図を次のとおり設定します。

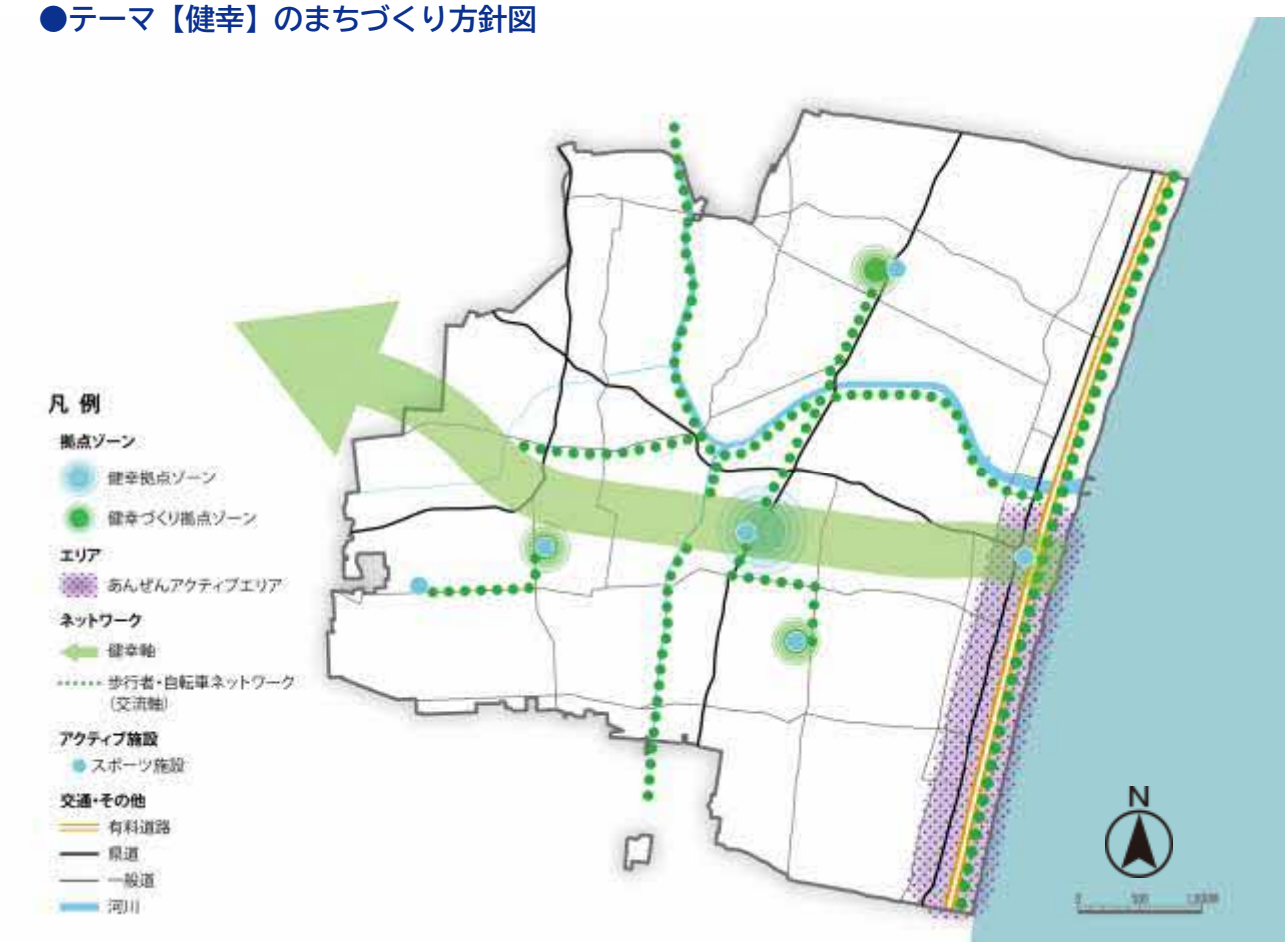
●テーマ【健幸】のまちづくりにおける課題や考慮すべきこと（以下の補足資料を次頁に整理）

- 高齢化の進展に伴う社会保障費の増加により投資的経費（道路等の整備、維持管理等のまちづくりにかけられる費用）の確保が難しくなる。
- スポーツ施設の老朽化が進行している。
- 白子町を含む医療圏は人口１０万人当たりの医師数が県内最小であり、医療資源が乏しい状況にある。
- ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の増加、若年世代の流出、核家族化等により、地域のつながりが希薄化し、地域や家族の支え合う力が弱まるなど、地域コミュニティのあり方が大きく変化している。

●テーマ【健幸】のまちづくりの方針

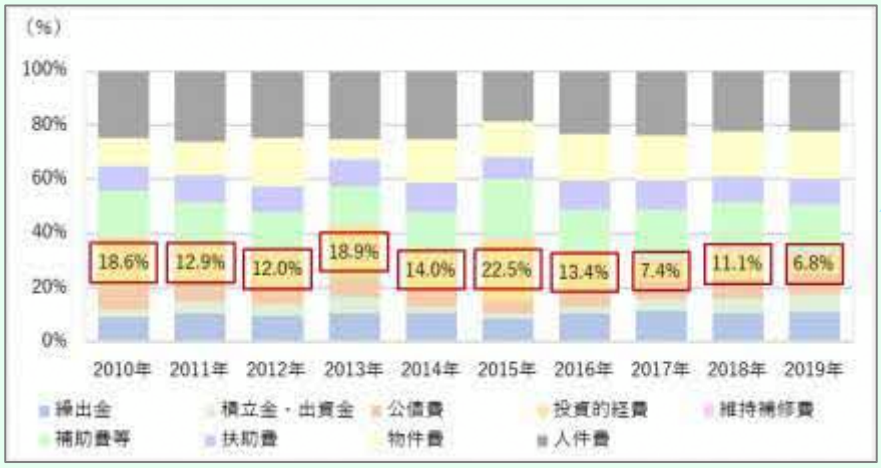
人も地域コミュニティも健幸でいきいきとしたまちづくり

●テーマ【健幸】のまちづくり方針図



（参考）テーマ【健幸】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことの補足資料

●高齢化の進展に伴う社会保障費の増加による投資的経費への影響



図：総歳出費に占める各項目の割合（出典：白子町公共施設等総合管理計画）

●現在はその傾向はみられないものの、高齢化の進展に伴って社会保障費が増大する恐れがあります。それにより、道路や公園等の公共施設整備を担う投資的経費が圧縮されてしまう恐れがあります。

●医療資源の状況

図：人口１０万人あたりの医師数（出典：地域医療情報システム）

●白子町を含む山武長生夷隅医療圏は、千葉県内の医療圏のうち人口あたりの医師数が最小であり、住み続けられる場所としての医療・福祉サービスの充実が求められています。

●世帯状況の変化、地域コミュニティのあり方の変化

図：高齢単身世帯・高齢夫婦世帯の推移（出典：国勢調査）

●平成１２（２０００）年以降、高齢単身世帯・高齢夫婦世帯ともに増加傾向にあり、一般世帯数に占める割合も増加しており地域コミュニティのあり方の変化への対応が求められています。

（2）テーマ【健幸】のまちづくりの方針の実現に向けた取組

テーマ【健幸】のまちづくりの方針の実現に向けた具体的な取組を次のとおり設定します。

＜まちづくりの方針の実現に向けた取組＞

取組の柱	該当する具体的な取組
医療・福祉機能が充実した健幸拠点ゾーンの形成	**○健幸拠点ゾーンの形成** ・人口減少や少子高齢化が進行する中、町民の生活を支える医療・福祉機能を維持・確保する観点から、現在の白子中学校付近へ新たに健幸拠点ゾーンの形成を目指します。 ・健幸拠点ゾーンには町民の生活を支える医療・福祉機能に加え、行政サービスや多世代・多目的な交流を促す機能等の集約を図ります。
地域の健幸づくり拠点ゾーンの形成	**○健幸づくり拠点ゾーンの形成** ・各地域におけるつながりや心身の健康の維持・増進をしていく観点から、各地域のふれあいセンターや統合後の旧小学校校舎等を活用した地域住民の交流及び健康づくりの場を、地域住民等と連携し創出します。
歩きたくなる、自転車で走りたくなる環境の整備	**○居心地が良く歩きたくなる環境づくり** ・散歩やサイクリングによる健康づくりを推進するため、海岸や河川沿いの道路整備やベンチの設置など、健康づくりをサポートする空間づくりを推進します。 ・また、目的地までの移動で徒歩や自転車を選択したくなるよう、歩道や自転車通行帯の整備を行うとともに、空間の高質化を図っていきます。
	○健幸ポイント事業の継続 ・健康づくりを一層推進するため、「歩くこと」の重要性に関する周知・啓発を行うなど、健幸ポイント事業の取組を継続します。
スポーツを気軽に楽しめる場所の確保	**○スポーツを気軽に楽しめる場所の確保** ・健康づくりの観点から気軽にスポーツ等を楽しむことができる場所を確保する観点から、統合後の旧小学校の校舎や体育館、白潟地域に多く分布するスポーツ施設の有効活用に向けた検討を行います。

テーマ３　交流・経済

（１）テーマ【交流・経済】のまちづくりの方針

第１章及び第２章における白子町の現状と今後のまちづくりで求められることの整理から、テーマ【交流・経済】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことを明確にしたうえで、それらに対応したまちづくりの方針及び方針図を次のとおり設定します。

●テーマ【交流・経済】のまちづくりにおける課題や考慮すべきこと（以下の補足資料を次頁に整理）

- 産業構造の変化により、農業等の第一次産業の担い手不足が進行している。
- 観光・旅行に対するニーズの変化や多様化、インバウンドへの対応が求められている。
- 観光施設の老朽化による受け皿の確保が求められている。
- 広域交通ネットワークの形成によるポテンシャルを活かした観光振興や戦略的な産業誘致等の強化が求められている。
- 農業の担い手不足解消の一助として、スマート農業などの先端技術の活用や普及を図ることが求められている。

●テーマ【交流・経済】のまちづくりの方針

来訪者も働く人も町民も笑顔になれる魅力あふれるまちづくり

●テーマ【交流・経済】のまちづくり方針図

（参考）テーマ【交流・経済】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことの補足資料

●農業等の第一次産業の担い手不足の進行

図：農家数・経営耕地面積の推移（出典：農林業センサス）

●平成２２（２０１０）年以降、経営耕地面積、農家数ともに減少傾向にあり、農業の担い手の確保や農地の保全・活用が求められています。

●観光・旅行に対するニーズの変化

●一般観光及びテニスを目的とした観光客はともに新型コロナウイルス感染症の拡大（２０２０年）により大きく減少しました。その後、一般観光は回復しつつあるものの、テニスは回復が遅れています。

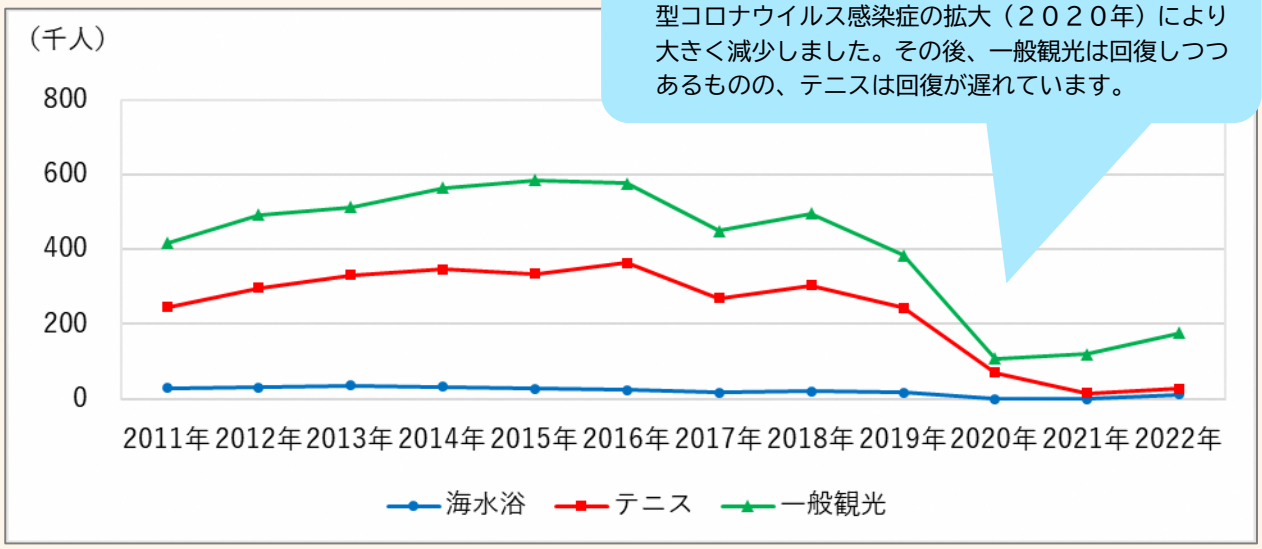


図　目的別観光客の推移（白子町観光振興プラン）

●観光・旅行に対するニーズの変化

図　白子町へのアクセス環境（出典：白子町 HP）

●広域交通ネットワークの形成により都心へのアクセスが円滑になりました。この良好なアクセス環境を活かした観光振興や戦略的な産業誘致等が求められています。

（２）テーマ【交流・経済】のまちづくりの方針の実現に向けた取組

テーマ【交流・経済】のまちづくりの方針の実現に向けた具体的な取組を次のとおり設定します。

●まちづくりの方針の実現に向けた取組

取組の柱	該当する具体的な取組
交流拠点ゾーンの形成	**○交流拠点ゾーンの形成** ・来訪者のアクセス環境を向上する観点から、待合スペースや観光案内、モビリティ・ハブ（広域交通のハブ機能だけでなく、シェアサイクル等のエリア内回遊を促すモビリティが確保された空間）等の機能を有した交通結節点を確保します。 ・また、来訪者の集客を促すため、集客機能を有する道の駅や直売所等の設置を検討します。
町へのアクセス性の向上と戦略的な産業誘致・育成	**○県道茂原白子バイパスの整備** ・町内外を結ぶ広域交通ネットワークの強化を図るため、県道茂原白子バイパスの早期整備に向けて、関係機関と連携を強化していきます。
	○戦略的な産業誘致に向けた都市計画変更等の検討 ・県道茂原白子バイパスの開通を見据え、沿道の土地利用のあり方や都市計画変更等を含めた実現化手法の検討を進めます。
	○沿道利用や拠点整備等を見据えたインフラ整備 ・県道茂原白子バイパスの開通による沿道利用や拠点整備等を見据えた上下水道やガス、電気等のインフラの確保を図っていきます。
営農環境と農地の保全・利活用	**○農地利用に関する地域計画** ・営農環境と農地の保全・利活用の観点から、農地一筆単位での将来５・１０年後の耕作者を定める農地利用の「目標地図」を整理した地域計画を策定します。
	○農地の保全と利活用 ・営農環境と農地の保全・利活用の観点から、「担い手への農地利用の集積・集約化」や「遊休農地の発生防止・解消」、「農業生産基盤の整備と利用管理」、「環境に配慮した農業の推進」等の取組を推進します。
地域資源（自然・農地等）を活用した新たな観光資源の創出	**○観光資源の維持・育成・強化** ・白子町の有する地域資源（自然・農地等）の有効活用を図る観点から、既存の観光資源の魅力向上や SNS 等を活用した情報発信を行うとともに、スポーツツーリズムやアグリツーリズム、ヘルスツーリズムなど新たなニーズに対応した取り組みを関係者と連携を図りながら推進していきます。

取組の柱	該当する具体的な取組
滞在快適性の向上	**〇宿泊施設等の更新の促進** ・町内の宿泊施設の老朽化が進行しており、今後も観光や旅行のニーズに対した受け皿を確保するため、宿泊施設等の更新や機能のリニューアルを促進するための支援等の検討を行います。
	〇滞在快適性の向上 ・観光や旅行で訪れた来訪者の滞在快適性を向上するため、ベンチやトイレ、展望スポット等の設置を検討します。
	〇来訪者の回遊性向上 ・地域への波及効果を促すため、自由度や利便性の高いモビリティサービス（公共交通、シェアモビリティ等）の整備を推進します。

テーマ４　環境・エネルギー

（１）テーマ【環境・エネルギー】のまちづくりの方針

第１章及び第２章における白子町の現状と今後のまちづくりで求められることの整理から、テーマ【環境・エネルギー】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことを明確にしたうえで、それらに対応したまちづくりの方針及び方針図を次のとおり設定します。

●テーマ【環境・エネルギー】のまちづくりにおける課題や考慮すべきこと

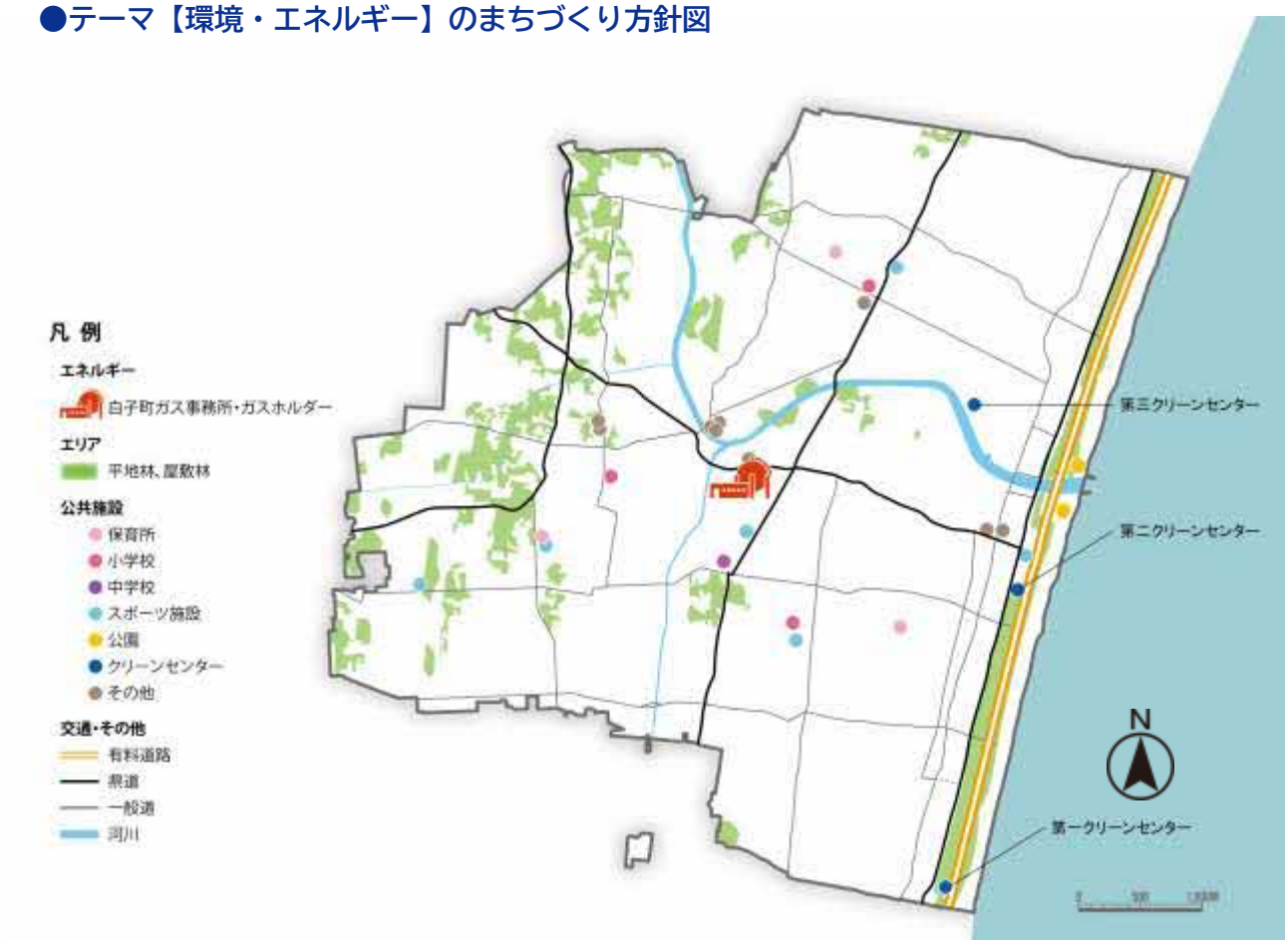
（以下の補足資料を次頁に整理）

- 地球温暖化等の気候変動への対応（２０５０年カーボンニュートラル化）が求められている。
- 白子町の特徴である天然ガスの持続的利活用が求められている一方で、ガス管等の老朽化が進行している。
- 供給処理施設（上下水道）の老朽化が進行しており、適正な維持管理・更新が求められている。
- 海や河川、防風林や平地林など豊かな水と緑の資源の保全と利活用が求められている。

●テーマ【環境・エネルギー】のまちづくりの方針

自然と共生した持続可能なまちづくり

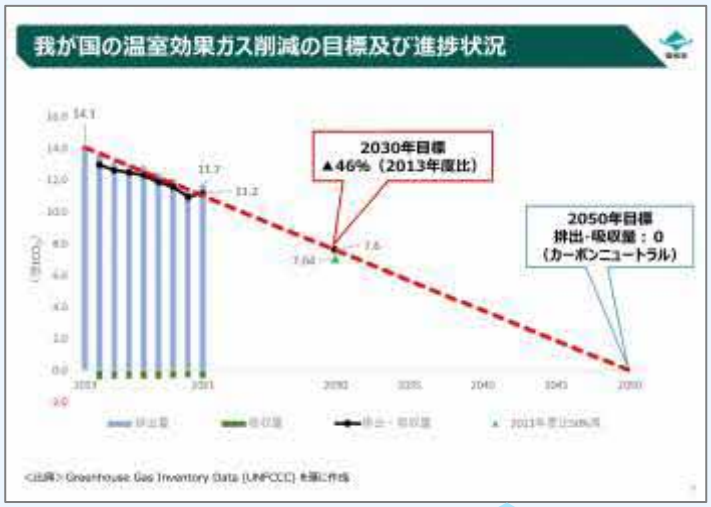
●テーマ【環境・エネルギー】のまちづくり方針図



（参考）テーマ【環境・エネルギー】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことの補足資料

●国内における CO2 排出量削減の目標

（出典：環境省「新たな成長のための環境行政」）



●国は、CO2 排出量を２０１３年度比で２０３０年までに４６％削減、２０５０年までに“ゼロ”を目標に掲げています。白子町においても目標達成に向け脱炭素社会に向けたまちづくりが求められています。

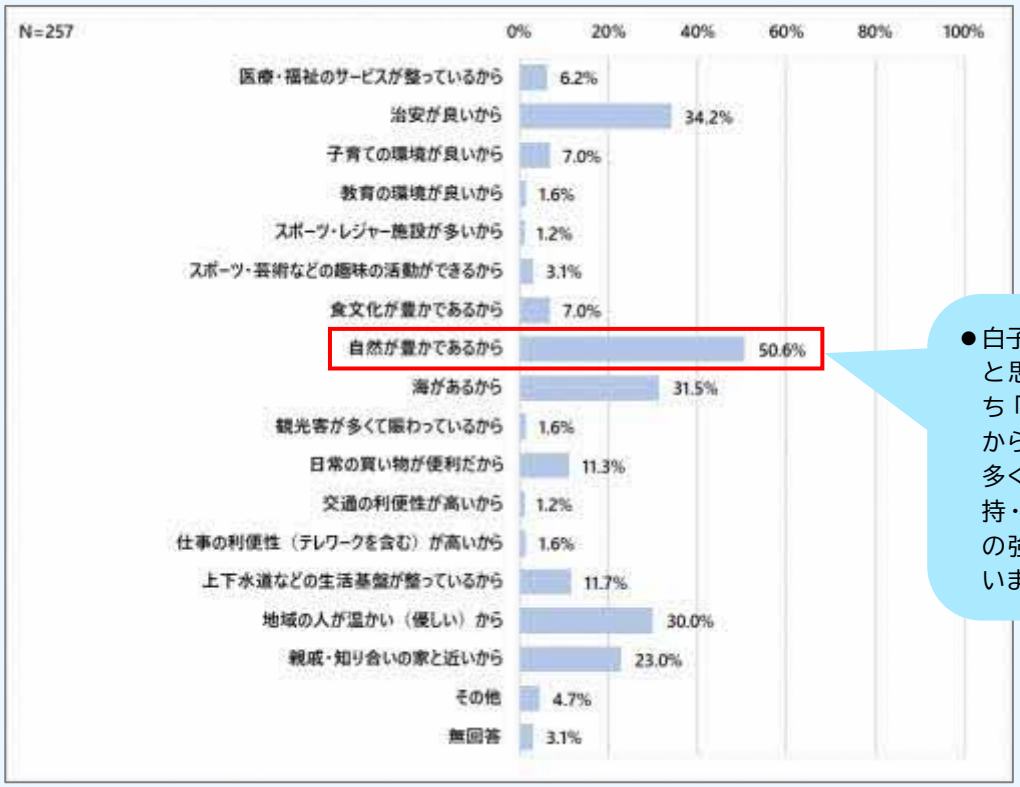
●白子町ガス事業所の供給区域図

（出典：白子町資料）

●町域の広範囲で天然ガスが供給されています。天然ガスの活用は脱炭素社会の実現にとって有効な手段であり、天然ガスの高度利用等、持続的な利活用が求められています。

●白子町が「住みよい」と思う主な理由

（出典：白子町第５次総合計画後期基本計画策定時に実施したアンケート調査）



●白子町が「住みよい」と思う主な理由のうち「自然が豊かであるから」との回答が最も多く、豊かな自然の維持・保全に向けた取組の強化が求められています。

（２）テーマ【環境・エネルギー】のまちづくりの方針の実現に向けた取組

テーマ【環境・エネルギー】のまちづくりの方針の実現に向けた具体的な取組を次のとおり設定します。

＜まちづくりの方針の実現に向けた取組＞

取組の柱	該当する具体的な取組
天然ガスの持続的利活用	○２０５０年カーボンニュートラルに向けた取組の推進 ・２０５０年カーボンニュートラルの目標を達成するため、天然ガスへのシフトや高度利用を推進します。
	○天然ガスの安定供給 ・天然ガスの安定供給のため、ガス管の適正な維持管理や更新を図ります。
供給処理施設（上下水道）の維持管理	○供給処理施設の適正な維持管理 ・上下水道の安定供給のため、供給処理施設の適正な維持管理や更新を図ります。
持続可能な未来につながる気候変動への対応	○循環型社会への適用 ・循環型社会の実現に向けて「生ごみ処理容器等の購入補助」や「住宅脱炭素化設備等設置補助」、「汚泥の堆肥化」等の取組を推進します。
	○施設整備に対する環境への配慮 ・気候変動への対応として、今後インフラや施設の整備・更新を行う際には、緑化や省エネ対策も合わせて実施します。
豊かな水と緑の保全・活用	○美しいまちづくりの推進 ・美しいまちづくりに向けて、遊休農地の活用や、ひまわり等の播種ならびに植栽の実施などの地域の美化活動を推進します。
	○美しい景観の形成や緑の保全活動の推進 ・美しい景観形成の観点から、住民協働による緑化活動の推進や、計画的な公園・緑地の保全、自然的資源の適正な維持管理等の取組を推進します。

テーマ５　安全・安心

（１）テーマ【安全・安心】のまちづくりの方針

第１章及び第２章における白子町の現状と今後のまちづくりで求められることの整理から、テーマ【安全・安心】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことを明確にしたうえで、それらに対応したまちづくりの方針及び方針図を次のとおり設定します。

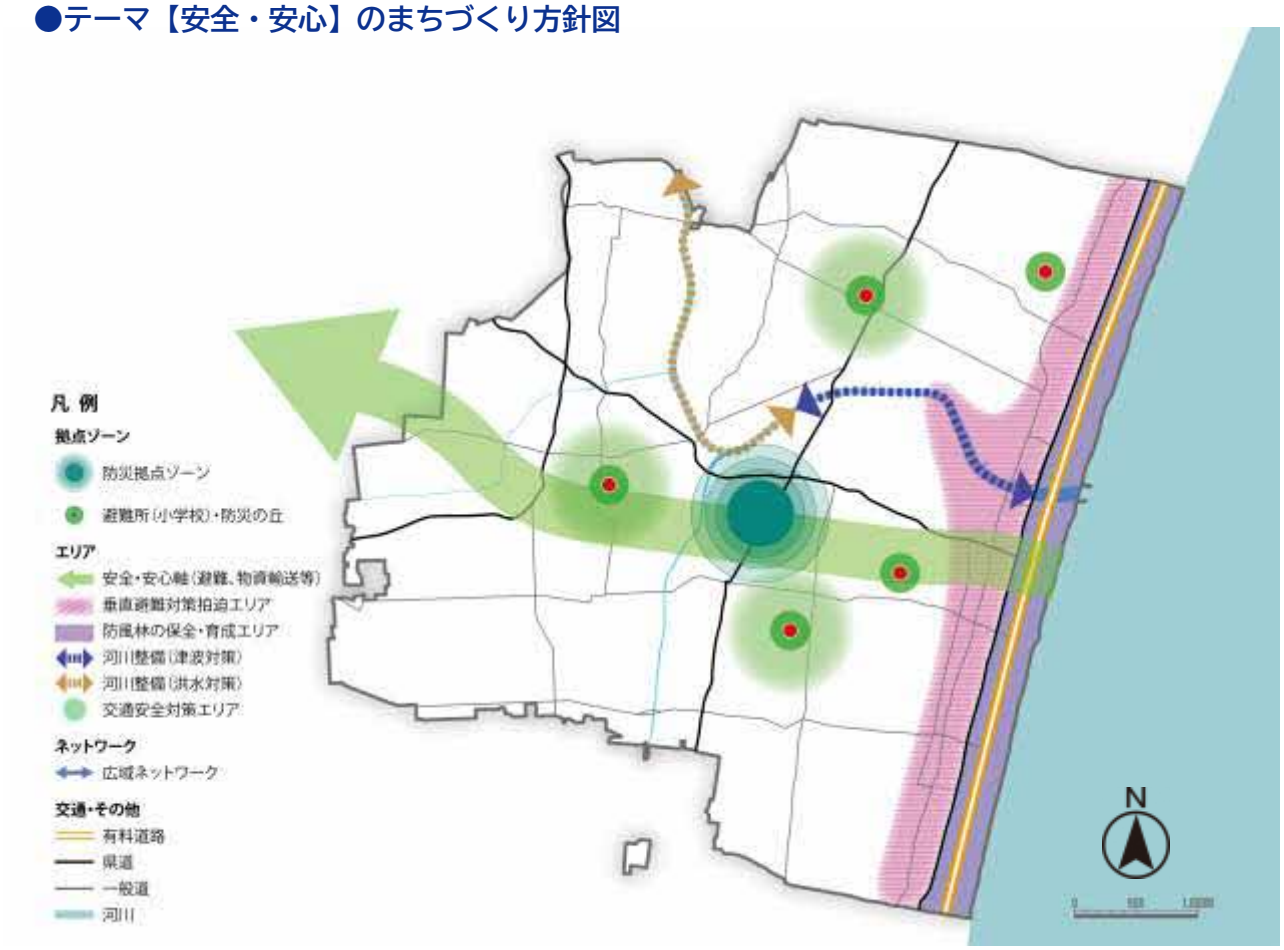
●テーマ【安全・安心】のまちづくりにおける課題や考慮すべきこと（以下の補足資料を次頁に整理）

- 自然災害の頻発化や激甚化による防災・減災に対する意識が高まっている。
- 用途地域を含む町の大部分が津波による浸水区域に含まれている。
- 高齢ドライバーの増加に伴い、高齢者による交通事故件数が増加している。
- 公共施設の老朽化が進行しており、適正な配置・維持管理・更新が求められている。

●テーマ【安全・安心】のまちづくりの方針

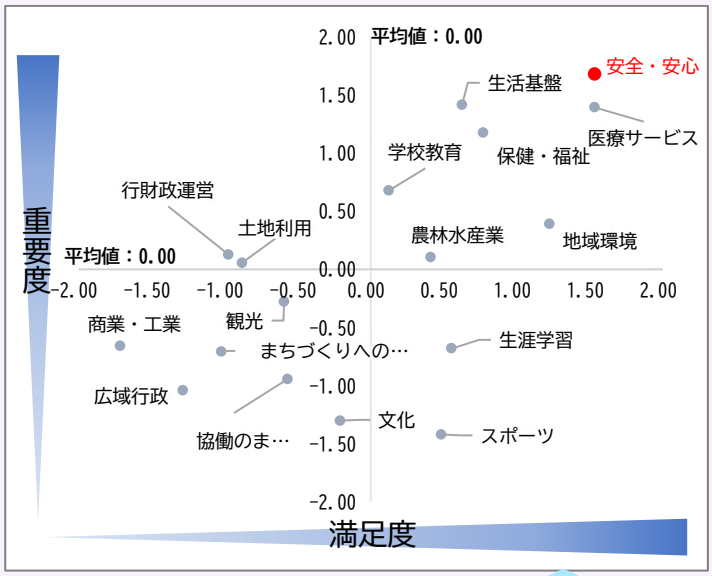
安全・安心な暮らしを実感できるまちづくり

●テーマ【安全・安心】のまちづくり方針図



（参考）テーマ【安全・安心】のまちづくりにおける課題や考慮すべきことの補足資料

●白子町第５次総合計画前期基本計画の施策に対する満足度・重要度　（出典：白子町第５次総合計画後期基本計画策定時に実施したアンケート調査）



●「安全・安心」に対する取組の満足度、重要度ともに高い傾向にあり、継続的な取組が求められています。

●津波浸水想定区域の指定状況
（出典：白子町ハザードマップ）

●町の大部分が津波浸水想定区域に含まれており、津波災害に対する回避・低減の取組の強化が求められています。

●高齢運転手による交通人身事故発生状況　出典：千葉県警察）

●令和元（２０１９）年以降、千葉県内の高齢運転手による交通人身事故件数は年間３，０００件程度で推移していますが、事故の総数に占める割合は増加傾向にあります。今後も交通安全対策等の充実により安全安心に移動できる環境の形成を図るとともに、過度に車に依存しなくとも生活できる環境整備が求められています。

（２）テーマ【安全・安心】のまちづくりの方針の実現に向けた取組

テーマ【安全・安心】のまちづくりの方針の実現に向けた具体的な取組を次のとおり設定します。

＜まちづくりの方針の実現に向けた取組＞

取組の柱	該当する具体的な取組
自然災害に対する備え（自然災害に対する回避・低減）	**○統合後の旧小学校校舎等の活用** ・安全な避難施設を確保するため、統合後の旧小学校校舎等を活用します。
	○災害に強く安心して暮らせるまちづくりの推進 ・災害に強いまちづくりに向けて、「公共施設における災害レジリエンスの確保」や「緊急避難施設の整備」、「流域治水に向けた周辺市町村との連携強化」、「農地等の適正な保全」等の取組を推進します。
災害時に対応した都市機能の確保と円滑な復興	**○県道茂原白子バイパスの整備** ・災害時の避難、救護・救援、復旧・復興を支える道路として、県道茂原白子バイパスの早期整備に向けて、整備主体である千葉県や沿道市町村との連携を強化していきます。
	○多世代・多目的交流施設の整備 ・多世代・多目的交流施設の整備にあたっては安全な避難施設としても利用できるよう計画します。
日常からの「もしも」に対する備え	**○災害に強いまちづくりの推進** ・災害に強いまちづくりに向けて、町民の防災・減災に対する意識の醸成や避難訓練の実施など、災害時に備えた準備を町民と共に進めていきます。
	○地域防犯の強化 ・安心して暮らせる環境を確保するため、防犯カメラの設置補助や地域防犯活動の促進などの取組を推進します。
交通安全対策の充実	**○交通安全対策の推進** ・交通事故の発生を抑制するため、交通安全施設の適正な維持管理や交通安全対策の啓発等の取組を推進します。
	○歩行者・自転車の安全性の確保 ・歩行者・自転車の安全性を確保するため、歩道整備やグリーンベルトの設置などの安全な歩行者通行空間を確保するとともに、自転車通行帯等の安全な自転車通行空間の確保に向けた取組を推進します。
	○学校周辺の交通安全対策の強化 ・子どもたちが安全に安心して通学できる環境を確保するため、自動車のスピードを抑制する施策（ゾーン３０や時間帯交通規制等の交通規制、ハンプや狭さく等の物理的デバイスの設置）の実施を検討します。